

次期総合計画策定までを、年間を通してお伝えする「シリーズ 市政の今」特別編。今回は、まちづくりの基本理念を踏まえ組み立てを進める「まちづくり戦略」についてお伝えします。



総合計画は「基本構想」と「実行計画」で構成されています。市民アンケート、市民ワークショップからの報告書や総合計画審議会からの答申など、意見やふるさとへの思いを取り入れ、市民や事業所の皆さんと一丸となって推進していきます。

「基本構想」は、まちの将来像を描き、どんなまちを目指すのか、どのようにまちづくりを進めるのかという基本的な考え方をまとめます。

「実行計画」は、この基本構想を実現するために4年間で取り組む施策や手法を具体的にとりまとめます。そしてその施策や事業は市が主体となつて実施するものばかりではなく、市民や事業所の活動を促したり支援したりするものも多く、その実現のためには皆さんと力を合わせ取り組んでいくことが不可欠です。

感謝を掲げ、具体的には次の3つの視点で実行計画を組み立てます。

- ◆活力あるまちづくり
- ◆安心のまちづくり
- ◆心豊かに暮らせるまちづくり

「いつまでも舞鶴に住み続けたい」「いったん市外に出ても舞鶴に戻ってきたい」と考えるためには、働く場やまちに魅力があることが大切です。交通ネットワークの充実・強化で、海・港などの地域資源を生かした産業の振興や人流・物流の拡大に努めます。また、農業、漁業などの一次産業の担い手の育成、元氣な事業活動を支援する取り組みで市民や事業所と力を合わせ地域経済の安定、活性化を目指します。

今後、世界経済の中心は、欧米からアジアへ移行するともいわれています。そうした中、北東アジア地域の中心に位置する京都舞鶴港は、日本海



▲ブランド化された地元産食材「万願寺甘とう」



▲機能強化が進む舞鶴国際ふ頭



▲ベアで歩数を競う国保ベアマッチ「歩王」の表彰式の様子



▲地元住民や消防団の協力により実施した原子力総合防災訓練

側海の玄関口として北近畿で唯一の重要港湾に指定されており、関西経済圏の日本海側の国際物流拠点の役割や国際クルーズ船の受け入れ港など、これまでも増してグローバルな役割を果たすことが求められています。諸外国と日本のゲートウェイとして重要な拠点であることから、さらなる機能強化のため、国や府と協力し関連道路などの社会基盤整備を進めます。また、増加するクルーズ客船などの来訪者・外国人へのサービスの向上やおもてなし、地域消費を促す取り組みを強化していきます。

農林水産業は、製品の販売促進に加えて担い手不足の解消に向け「万願寺甘とう」や「丹後とり貝」などの地元産食材のブランド化を進め、一流レストランのシェフやパティシエに旬の食材を直接PRするなどの積極的なプロモーションを行い「稼げる一次産業」のビジネスモデルとイメージ形成を目指します。

商工業では、長年蓄積されてきた造船業などの高い技術力を次の世代へつなげていくためにも、教育機関などとも連携し、ものづくりの面白さや楽しさを子ども達に伝えていきます。

人口減少が進む中、高齢者の人口は今後も大きな増減はなくほぼ横ばいになるため、人口全体に占める高齢者比率は少しずつ上昇していくとされています。皆さんがいつまでも健康であり続けるために、幅広い健康づくりの取り組みを進め、高齢者や障害のある人などの意見も聴きながら、社会に関わりを持ち続け自立した生活がおくれるよう取り組みます。

また、専門性の高い診療を受けられる医療体制を維持し、安心して医療を受けられる体制を整えるなど健康づくり・医療体制づくりを進めます。

防災・減災対策の強化も、毎年のように訪れる大型台風やゲリラ豪雨をはじめ、自然災害などに対する備えが重要であり、市民が自ら判断して対応する自助・共助の意識を高め、安全で安心して暮らせるまちづくりを目指します。

次号は「心豊かに暮らせるまちづくり」と「市政運営の基本方針」を紹介いたします。